



バドミントン全道大会出場

6月7日、第76回北海道高等学校バドミントン選手権大会の釧根支部予選会を勝ち抜いて、全道大会（6月11日～14日、札幌市）に出場する白糠高等学校の対木隼祐さん（3年）と対木慎哉さん（2年）兄弟が、役場を訪ね川島眞澄教育長へ出場報告をしました。

報告会では、川島教育長が「2人の活躍が今的小中学生の憧れになります。頑張ってください」と選手を激励。隼祐さんは「高校生活最後の大会なので、全ての練習の成果を発揮し全力で戦います」、慎哉さんは「兄（長男の一輝さん）が残したベスト8の記録と、肩を並べられるように頑張ります」と健闘を誓いました。

男子ダブルスで出場した2人は、3回戦まで進み北海道ブロックでベスト8の結果となりました。



左から慎哉さん、隼祐さん、川島教育長

備えあれば憂いなし 防災減災対策

町おこし エネルギー 防災ベッド寄贈

株式会社町おこしエネルギー(沼田昭二会長)から木製の防災ベッドを500セット寄贈していただきました。

沼田会長は、町内でバイオマス発電所事業を開いている神戸物産の創業者であり、現在は学校法人ジオパワー学園「掘削技術専門学校」の理事長も務めています。また、畜産と太陽光発電が融合した「ソーラーグレージング」を進めています。

このたび寄贈していただいた木製の防災ベッドは、札鶴ベニヤ株式会社と町が共同で開発したもので、長期間の使用や保存が可能となっており、プライバシーの確保やベッドの中には貴重品も保管できます。

6月6日、役場で寄付採納式が行われ、沼田会長が棚野孝夫町長に目録を手渡しました。

棚野孝夫町長は「まちづくりに多大なる貢献をいただき感謝しています。これまでにも大地震、津波が来るという前提で避難訓練やさまざまな防災対策をしてきました。今回、防災対策の一つとして、一歩前の安心につながる寄付をいただいた

ので、町民の皆さんには機会あるごとに組み立てや撤収の練習をしていただき、災害に強いまちづくりに生かしていきたい」とお礼を述べました。

沼田会長は「災害を防ぐことは難しいかもしれません、避難生活のストレスといった災害による二次被害につながるようなことは、できるだけ防ぐことが重要だと思います」と話していました。

防災ベッドに関する問い合わせは、役場地域防災課地域防災係 ☎ 2-2171(内線222・223)まで。



- ①防災ベッドを前に採納式でお礼を述べる棚野町長。
- ②沼田会長から目録を受け取る棚野町長。
- ③防災ベッドはフレーム構造で高い強度を誇ります。ベッドの下には収納スペースが確保され、貴重品等を保管できます。